

発行責任者：宮城県肢体不自由児者父母の会連合会 会長 永井 一男
〒983-0836 仙台市宮城野区幸町4丁目6-2
(財)宮城県障がい者福祉協会内
電話：022-293-2902 FAX：022-291-1588
ホームページ：http://miyagikenshiren.web.fc2.com



全国肢体不自由児者父母の会連合会 第55回全国大会 東海北陸肢体不自由児者父母の会連合会 第57回愛知大会

日 時：令和4年9月10日（土）
会 場：ロワジュールホテル豊橋 ホリディ・ホール
大会テーマ：住み慣れた地域で自分らしい生活ができる共生社会の実現！



第55回全国大会も新型コロナウイルス感染症拡大を考慮し、WEBオンラインでの視聴参加と会場参加のハイブリッド形式で開催され、宮城県からはWEBオンラインで参加しました。

「誰もがともに生きていくできるまちづくり～本当のインクルージョンをめざして～」と題して基調講演が行われました。

続いて分科会が開催されました。各分科会のテーマは以下の通りです。第一：肢体不自由児者に期待されるICTの活用、第二：教育現場は今、第三：大地震に備える、第四：肢体不自由者の福祉的就労と一般就労。

会場参加だとどれか一つの分科会にしか参加できませんが、オンライン参加なら全分科会のビデオを見ることができると、ありがたく感じました。

閉会式では大会決議文が朗読され、異議

なく採択されました。

- 一、障害児者及びその家族・支援者の新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を進めること
- 一、障害のある人の人権が守られ、誰もが自分らしく生きられる社会を実現すること
- 一、肢体不自由者のグループホームの拡充による誰もが地域で普通に暮らせる環境の確保をすること
- 一、医療的ケア、重度重複障害があっても住み慣れた地域で安心して暮らせる支援体制を充実すること
- 一、残存能力を活かせる就労・生活の工夫を充実すること
- 一、肢体不自由児者の理解を深める啓発活動を充実すること

(松田廣勝記)



東北ブロック指導者育成セミナー

日 時：令和4年7月23日（土）・24日（日）

会 場：岩手県八幡平市 岩手いこいの村

テーマ：障害者のためのシーティングの活用

～シーティングで変わる障害児の未来～

～快適性向上、二次障害予防、機能性向上、自立支援のために～

講 師：一般社団法人・日本車いすシーティング財団代表理事・山崎康弘氏

令和4年度東北ブロック地域指導者育成セミナーは、令和4年7月23日、24日の両日、岩手県八幡平市・岩手いこいの村で、東北各県から21名が参加して開催されました。宮城県肢連からは4名の参加でした。

セミナーは、全肢連会長の清水誠一氏の挨拶に続き、本年度のテーマである「障害者のためのシーティングの活用」について、講師の山崎康弘氏が講演しました。

2日目は、車いすで参加した人の体型に沿って、シーティング器具を使用するのデモンストレーションを行い、最後に質疑応答でセミナーは終了しました。

講師の山崎氏は、1960年東京に生れ、1979年留学中の米国で事故により脊髄損傷で下半身まひの身体障害者となりました。その後車いすの長期間利用で背柱の側湾と円背等二次障害を患い、入院していた米国の病院で車いすシーティングと出会いました。自らもシーティングを実践して克服しました。

そのすぐれた理論と技術を学び、障害児から高齢者まですべての車いす使用者の、悪い姿勢による二次障害防止と機能向上、自立支援と介護軽減に取り組んでいます。

山崎氏の講演要旨を紹介します。

車いすシーティングとは

車いすシーティングとは、車いすを利用する人に合わせて、適切な車いすを選択し最適な状態に設定・調整するための理論と技術で

す。

適切な姿勢保持による二次障害予防と、残存機能の最大限の発揮を目的としています。結果として、自立度が向上し、介護軽減が可能となります。

二次障害とは、後天的に発生する変形、脱臼、異常な筋緊張や呼吸器系や消化器系等の障害です。

二次障害は障害児者の運命ではない

障害があるから変形が生じるのではありません。障害があることで正しい姿勢が取れなくなり、悪い姿勢になって身体が変形するのです。

障害による筋肉の緊張のバランスが原因で、正しい姿勢が保持できなくなり、悪い姿勢になるのです。悪い姿勢を改善して良い姿勢を保つことで、多くの二次障害は防止できるのです。障害を持った人に関わる全ての人々が「二次障害は防げる」との共通認識を持って、それに必要な知識と技術を身につけて実践すること。それが二次障害を予防して健康に発育し元気に活動できることとなります。障害児者には、失われたまたは不十分な筋肉の代わりに、身体を支持してくれるものが重要です。それがシーティング等の姿勢保持で使用する機器なのです。

二次障害を防止するために

二次障害を防止するために不可欠なことの中で、下肢障害者、特に車いす使用者に最

も重要なことは、正しい姿勢の確立です。車いす上で正しい姿勢をとるためのシーティングによる姿勢保持が不可欠です。次に大切なことは「酷使しないこと」です。自立しようとする障害者ほど残存機能を酷使してしまいます。正しい姿勢をとることも、酷使しないことも早い時期に始めることが最も大切です。

重力を敵とするか、味方とするか

障害者の姿勢に大きな影響を与えるのが重力です。健常者であれば全身に正常な筋肉があるので重力の存在に気づきません。しかし、障害があると自分自身で身体を支えるための十分な筋肉が失われたり、弱くなったりしています。腹筋、背筋、首、足などの筋肉が衰えたりマヒしたりしているため、自分自身を支えることが出来ません。そこに重力がかかると重力に負けてしまい、体を保つことが出来なくなり姿勢が崩れてしまいます。崩れた姿勢は歪が生じ変形し固定してしまいます。障害者は健常者のようにまっすぐな良い姿勢で座ることが困難です。そのためにシーティングに基づいて、座面や背面を倒れる側にサポートなどを使って保持することが

必要です。

重力の悪い影響がかからないように保持した姿勢を「指示された姿勢」と呼びます。シーティングは有害な姿勢を支持された姿勢に変えて、重力の影響を無くすことです。

姿勢の土台は骨盤

車いす使用者の姿勢で重要なことは、座位姿勢の土台となる骨盤の傾きです。骨盤の悪い傾きによって、骨盤より上の上体と下の下肢の両方が影響を受けます。最初にすべきことは、傾いた骨盤の改善です。

正しいシーティングの順序は、最初に骨盤の傾きを改善し、必要に応じて体幹保持や下肢の保持を提供します。

シーティングを提供する目的は、重力が敵とならない快適な姿勢です。そのために骨盤を適切に保持し、骨盤の上に肩と頭がくる姿勢を提供します。そのことによって、快適に長時間過ごし、上肢をはじめとした機能性の向上が可能となります。

車いすを移動だけの道具と考えず「生活の場」として、快適に一日中暮らせる環境と考えるべきです。

(永井一男記)



令和4年度第1回宮城県障害者社会参加推進協議会

日時：令和4年11月28日（月）13時～

場所：宮城県障害者福祉センター 3階大会議室

令和4年度の障害者社会参加推進協議会は、11月28日県障害者福祉センターで、オンライン出席者5名を含む22団体30名が出席して開催されました。

協議会は、森正義会長の挨拶に続き、参加団体が紹介された後、「災害時の要配慮者支援について」宮城県保健福祉課大泉織江氏による説明と、「3.11から学んだこと、伝えたいこと」と題し、震災語り部の気仙沼地域防災リーダー菅原貞芳氏の講話がありました。要旨は次の通りです。

「災害時の要配慮者支援について」

大泉織江氏

平成23年の東日本大震災では、65歳以上の高齢者の死亡者数が全体死亡者の60%を占めた。障害者の死亡率は全体の死亡率の約2倍に上った。このようなことから、平成25年6月に改正災害対策基本法が公布され、「避難行動要支援者名簿」の作成が市町村に義務付け、平時から避難支援者に対する名簿情報を提供、災害時に名簿を活用することとなった。

平成25年12月宮城県は被災県として、大震災の教訓と国の指針等を踏まえた県の考え方を示し、市町村の取り組みを促進するため「県避難行動要支援者等に対する支援ガイドライン」を策定した。更に近年の台風や豪雨災害の発生に伴い、高齢者や障害者などに被害が集中、令和元年の台風19号では、死亡者全体のうち65歳以上の高齢者の割合が約65%、令和2年7月の豪雨では79%にのぼった。

令和3年5月災害対策基本法が再改正され、「個別避難計画書」の作成が市町村の努力義務となった。平時から避難支援者に対する個別避難計画情報を提供し、災害時に迅速な対応が出来るようにした。と支援対策の経

緯を説明した上で、要支援者名簿や個別計画書など詳細な説明がありました。

最後に、名簿作成は県内35全市町村で完了しているのに対し、個別計画書は策定済みが3市町、一部策定が10市町、未策定が22市町村もあるとし、自然災害はいつ、どこで起きるか分からない、平日頃の備えが重要だ。個別計画書の早期策定の促進に努めたいと結びました。

「3.11から学んだこと、伝えたいこと」

菅原貞芳氏

東日本大震災当時、南三陸町立志津川中学校校長だった菅原氏は、学校が避難所となったことを基に、「避難所設営と運用」について写真と実体験をもとに説明しました。

- ①駐車場は、校庭の中央をヘリポート用にし、入口から出口を一方通行として流れをコントロールした。
- ②秩序を維持するため、全職員が「志津中」の腕章をつけ、班長や室長は「学警連」の腕章をつけた。各階廊下の掲示板に「学校関係」「交通情報」「生活情報」の3項目を掲示した。
- ③避難所は町内会(地域)ごとの部屋割りにし、支え合い励まし合える環境を作った。
- ④衛生的な避難所にするため、土足厳禁としスリッパを用意した。食器や割り箸などなるべく使い捨て出来るものにした。と衛生面への配慮の必要性を訴えました。

最後に、マスクミ対策や危機管理には、学校、行政、住民の明確な役割分担が最も重要だとし、今後は、地域防災を担う人材を育てるための防災教育に力を入れるべきだ。と訴えました。

(永井一男記)

車いす送迎車の寄贈式とさわやかレクリエーション

日 時：令和4（2022）年11月13日（日）

場 所：宮城県障害者福祉センター

車いす送迎車の寄贈式

アステラス製薬から宮城県障がい者福祉協会へ

全肢連では、地域福祉推進を目的に、地域に根差して活動をしている施設や団体を都道府県肢連からの推薦を受け、「車いす送迎車」の提供をアステラス製薬に申請しています。

本年度は、宮城県肢連から当会が事務所を提供していただいている「宮城県障がい者福祉協会」の肢体不自由児部門に車いすの提供を推薦させていただいたところ、寄贈が決定し、令和4年11月13日に寄贈式が執り行われました。



寄贈式には、アステラス製薬や県障がい福祉協会、宮城県肢連会員ら多数が参加し、アステラス製薬から障がい者福祉協会のきぼっこキャンプ参加者を代表して佐藤大夢さんへゴールデンキーが手渡されました。福祉協会副会長の伊藤清市さんは「車いすを必要とする人たちの行動範囲が広がり、社会参加の機会がますます増えることと思います」とお礼の言葉を述べ、福祉協会、きぼっこキャンプ、県肢連からアステラス製薬に記念品を贈り閉会しました。

なお、アステラス製薬では、日本国内のグループ社員約4,100人が社会貢献活動の一環として、健康と福祉の向上に寄与することを目的に「フライングスター基金」を設立。1997年から毎年車いす送迎車を寄贈しています。

あらためて、アステラス製薬のフライングスター基金に参加している社員の皆様に、心から感謝申し上げます。

（永井一男記）

さわやかレクリエーション

「クリスマス会」に替えて開催

令和4年度の「さわやかレクリエーション」は、当初石巻方面へのバス旅行を予定していましたが、コロナ禍を考慮して、一足早い「クリスマス会」に変更して実施しました。

クリスマス会は、11月13日（日）、宮城県障害者福祉センター大ホールに22

名が集い、昼食を挟みながら開催され、ゲームを楽しんだ後、サンタクロースに扮した県肢連会長から参加者全員にプレゼントが渡されました。プレゼントを手にして、早速中身を確認し歓声を上げていました。参加者は久しぶりの対面で、予定した時間を過ぎての歓談となりました。

当日は、かねて当会から推薦していた「車いす送迎車」の寄贈式も行われました。
(永井一男記)

令和4度のさわやかレクは、当初バスで石巻方面と計画しておりましたが、毎日3,000人以上のコロナウイルス感染者が出ているので、一時は中止にしようと思いましたが、役員会で決めました。全肢連にその旨を伝えると、せっかく申請が通り補助金も出るのだからもったいない!! 時期をずらしてクリスマス会はどうか?と提案されました。役員さんを通じて会員の方々の意見を聞いてみると、コロナ禍で中々何処にも出かけられない。友達とも会えなくて寂しいという声が随分聞こえてきました。そんなときに全肢連からアステラス製薬の「フライングスター基金」で宮城県肢連が推薦した宮城県障がい者福祉協会の肢体不自由児部門にリフト付きの車いす送迎車が寄贈されると連絡が入りました。車両贈呈式にここ2年間はコロナ禍のためにアステラス製薬の関係者は出席しておらず、今回は是非出席したい!!。数名の方が来仙することでした。それに伴い県肢連の三役、役員数名の他、車いすを使用しているさ

わやかキャンプのOB数名も出席して欲しいとのことでした。

贈呈式が11月13日(日)12時～、場所は宮城県障害者福祉センター大会議室に決まり、県肢連の会員が10名以上集まるのでそれに合わせて、式典の終了後にさわやかレクを実施してはどうか?となり急遽、仙台肢会役員の方々に協力して呼びかけていただきました。総勢22名の方が集まり開催することができました。準備期間は10日もありませんでしたが、役員の方々の尽力に感謝です。開催するからには対策をきちんとして、十分に距離を保ち絶対にマスクを外さないという条件付きです。こんな状況下ではありましたが、マスク越しでも笑顔がわかりました。レクの内容は、『一足早いクリスマス会』と題し、ちょこっと卓球ゲームと大きなあみだクジに線を入れてもらい、当たった人からサンタさんに扮した(白ひげと赤帽子)永井会長からプレゼントをもらって二人並んでハイチーズ。袋を開けて大笑い。歓声があがりました。

早くマスクを外してバスで出かけられるさわやかレクにしたいものですね。

(下山恵子記)



追悼 目黒恵子さん

前顧問 目黒さんを偲んで

仙台肢会会長 佐藤征機

目黒前顧問は、グループホーム建設が発足してから、法人格・運営・建設資金等について、問題点が山積みしていました。その時に目黒顧問から手紙をもらい、その中にはグループホームに関する建設的なもので、それを頂いた自分は大変嬉しく思いました。それを参考資料としていろいろな打ち合わせ会に参加しましたが、思うように運ばなかったのが残念でなりません。いい勉強をさせていただきました。

いろいろとご指導していただきありがとうございます。御座いました。

ご冥福をお祈りいたします。

追悼

仙台自立の家 施設長 尾暮 耕司

平成10年の2月ごろ、私が初めて太白自立センターへ面接にお伺いしたとき、本多毅先生、齋藤佑先生とともに同席されていたのが目黒恵子さんでした。

法人の設立について熱を込めてお話しされる両先生とは対照的に、目黒さんは静かな面持ちで一言二言と話をされる印象がありました。

以来、太白自立センターに通うと度々お目にかかるようになりました。生後8か月の息子を連れて行った時には、目黒さんが抱っこして西多賀病院の裏の方までお散歩に連れて行って下さいました。無愛想な私はパソコンに夢中のあまりロクにお礼も言えず、あとでひどく後悔したものです。

芋沢の吉成山に待望の「仙台自立の家」が建ち、利用者も通うようになってからも、目黒さんは献身的にお世話をしに来てく

下さいました。毎年恒例の春の野外レクリエーションにはお団子の差し入れ、クリスマスの頃には仙台友の会のクリスマスケーキの差し入れ、植栽に除草作業、さらに雪の多い日には敷地の雪掻きを手伝って下さったこともあります。積み上げられた雪と驚くほど広くなった敷地で、スコップの柄に手をかけて「大正生まれはこんなものよ」と笑っていらしたのが印象的でした。

やや細面なお顔に柔和な笑みを湛えつつ、強い意志と行動力をもって活動される姿勢は勇敢でさえありました。いっぽうエプロンなどをお召しになり真っ直ぐ立っていらっしゃるお姿は端正で、まるで斑鳩法隆寺の百済仏のようでした。

多くの先達がそうであったように、目黒さんもまた仙台自立の家を可愛がって下さいました。開所25周年を迎えるにあたり、ぜひ式典にお招きしたかったのですが残念でなりません。

いまはまだ、目黒恵子さんのご冥福を心より祈るばかりです。



仙台自立の家感謝祭

日 時：令和4（2022）年10月8日（土）

場 所：仙台自立の家

新型コロナウイルス禍で2年中止しました仙台自立の家感謝祭でしたが、今年度は、コロナ禍が少し緩和されましたので、時間を短縮し、午前10時から11時30分までとし、屋台や飲食などをしないという事で開催されました。

仙肢父母の会の準備として、庄司さんの親戚の方から餅米を仕入れましたし、いつも小原さんの叔父さんからは、玉ネギ、じゃが芋を沢山寄付して頂いたり、菅原さんからは、バザー用品を沢山寄付して頂きました。餅米、玉ネギ、じゃが芋を袋詰めしたり、バザー用品の値付けなど自立の家、仙肢父母の会の皆さんに手伝って頂きました。

当日は、お天気も良く利用者さん達も生き生きとして、施設製品を頑張って販売していました。自立の家、仙肢父母の会の皆さんも久しぶりにお会いする人もあり、和気あいあいと販売しておりました。

お客様は、いつもよりコロナ禍もあってか少なかったのですが、バザー用品は、格安の値段でしたので沢山買って下さるお客様もおりました。1時間半の販売でしたので最後の方はバザー用品を値下げして販売すると、買って下さるお客様もおりました。又、いつもご協力して下さる「宮城県麗人会赤十字奉仕団」による背部マッサージもあり盛況でした。バザーの収益金36,690円は、自立の家、後援会、仙肢父母の会で配分しました。

ご支援、ご協力を頂きました皆様には感謝申し上げます。これからも宜しくお願いいたします。

（瀧澤琴子記）



単位会だより

仙台地区

会長 佐藤征機

令和4年6月4日に通常総会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面での開催に変更することを令和4年5月28日に決めました。会員各位にはお知らせの通知を送付いたしました。

恒例の仙台市健康福祉部障害企画課、支援課との打ち合わせについて令和4年度も新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止としました。

仙台自立の家の感謝祭については、令和4年10月8日（土）に時間を短縮して開催されましたが、地域の皆様や会員の方々に大勢来ていただきました。お手伝いをいただきました皆様には、何事もなく終了することができましたので本当に御苦労様でした。

令和4年7月23日（土）～24日（日）の2日間、岩手県八幡平市の「憩いの村岩手」において東北指導者育成セミナーが開催され、4名（仙3、宮1）が参加しました。

1日目 講演 一般財団法人日本車椅子シーティング財団 理事 山崎泰宏氏のテーマである「車椅子等利用時のシーティングと支援機器等の活用について」肢体不自由者にとって日常生活を快適に過ごすために必要な支援機器の活用方法を学び、移動や生活に必要な車椅子で生じる二次障害等予防し、姿勢を正しく保つことに効果のあるシーティングを取り上げ、障害当事者である講師自身の体験を交えながら講演をしていただきました。

2日目 講師によるシーティングの実演 市町村にはシーティングの通知がまだ届いてないと思います。車椅子のメーカーがわかるのでメーカーと相談するとわかります。親の会が相談してメーカーと双方で市町村に申請することもできます。

最後に秋田県の会長から第40回東北ブロック秋田大会は、各県から参加者の意見により令和4年度は中止となりました。

さわやかレクリエーションは令和4年11月13日（日）【クリスマス会】を宮城県障害者福祉センターで開催しました。20名が参加してくれました。

東部地区

会長 赤間邦夫

令和4年度第34回東部地区総会は書面での開催といたしました。特に、東部地区内新型コロナウイルス感染拡大が収まらず、当面の対策で役員会を自粛し、開催時期・開催方法等模索していましたが、対面の形では実施することができませんでした。会員の皆様には大変申し訳ありませんでした。次年度は、是非対面の形で開催したいと考えていますのでご理解戴きますようお願いいたします。

会員の皆さんの声は、障害のある子の「親亡き後」の不安と自活できる施設とグループホームの要望です。親や家族、障害者自身の高齢化で不安等多く90、70/80、60/70、50の問題が現実になり深刻な状況です。親の病気や障害者本人の入院や機能低下で生活に支障が出始めています。行政や福祉関係者と話し合いや各家庭との連絡体制が益々大事になってきています。

東部地区は交流を大事に、会員の皆さんと一緒に支え合いながら継続していきます。新型コロナウイルス感染症法上の位置づけが令和5年5月8日以降、5類に引き下げられ普段の生活にもどrittつ変わる生活様式になります。「第9波」を監視しながら拡大防止に注意して活動していきます。

今後とも会員皆様のご支援とご協力をお願いいたします。

仙北地区

会長 川名敏也

昨年度も、新型コロナウイルス感染拡大のため会合や行事等の活動ができませんでした。

会としては、涌谷町内の他の障害者団体と協力し涌谷町長に対して病気の治療のため人工肛門装着している方々のために公共施設内に専用トイレ設置を要望したところ涌谷町医療福祉センター内に専用トイレが設置されました。

今後、人工肛門装着者のトイレの利便性が高まることを願っています。

次に仙北地区会員の子供達はほとんど施設に入所している現状ですので施設に対する支援や高齢障害者の問題を考える活動を行っていきたいと思います。

会長日誌

仙台市肢体不自由児者父母の会

会長 佐藤征機

今年も役員さんにいろいろとご協力をいただきましてありがとうございました。

令和4年6月4日に通常総会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和4年5月28日に書面での開催に変更することを決めました。会員各位にはお知らせの通知を送付いたしました。

恒例の仙台市健康福祉部障害企画課、支援課との打ち合わせについて令和4年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止としました。

仙台自立の家の感謝祭については、令和4年10月8日（土）に時間を短縮して開催されましたが、地域の皆様や会員の方々に大勢来ていただきました。お手伝いをいただきました皆様には、なにごともなく終了することができましたのでほんとうに御苦労様でした。



宮城県肢体不自由児者父母の会連合会

会長 永井一男

新型コロナ「5類」に マスクは自己判断

新型コロナウイルス感染症が国内で確認されてから3年が経過しました。この間、ウイルスは様々に変異し



ながら、8波にわたり流行を繰り返しました。昨年11月からの第8波ではオミクロン株・BA・5型が主流となり、感染力はこれまでになく強く、新規感染者と高齢者を中心にした死者は、連日爆発的な数に上りました。2月に入り新規感染者は減少しつつありますが、このまま終息に向かうのか、しばらくは推移を注視していく必要があります。

このような中で政府は、大型連休明けの5月8日に、これまで「2類」だった新型コロナウイルス感染症を、季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げる方針を決めました。医療費などはこれまでの公費から原則個人負担となります。

マスク着用についても、3月13日から屋内外を問わず不要とし、着脱は自己判断に委ねることになりました。脱マスクによる感染リスクは高まるものと思います。まだまだ注意が必要と言えるようです。

ウクライナ侵攻 外交での停戦を!

ロシアがウクライナに侵攻して1年が過ぎました。ロシアのプーチン大統領は2023年年次報告演説で、侵攻の正当性を訴え長期戦の構えを見せています。欧米各国もウクライナに主力戦車など供与し、ま

すます激しさが増えています。

ウクライナ侵攻は、エネルギー価格や食料品などの高騰をもたらし、世界経済に大きな打撃を与えています。

いかなる理由にせよ武力での解決はありません。外交努力で一刻も早い停戦が望まれます。

ミサイル頻発 北朝鮮の脅威

昨年11月3日の早朝、Jアラート（全国瞬時警報システム）が、北朝鮮から弾道ミサイルが日本に向け発射されたことを告げ、宮城、福島、新潟各県に頑丈な建物や地下への避難を呼びかけました。

10月4日にも青森県上空を弾道ミサイルが通過するなど、多数のミサイルが北朝鮮から発射されています。近くに頑丈な建物や地下などない住宅地で、どこに避難すればよいのだろうか。

中国も偵察気球

中国の偵察用気球とみられる物体をアメリカは、民間機の安全な飛行を妨げるとして、ミサイルで撃墜しました。日本でも昨年6月に宮城県上空で飛行物体が目撃されたほか、青森県や鹿児島県でも目撃されています。

政府は、気球が日本上空を飛行した場合は、領空侵犯とみなし遊撃できるよう武器使用の緩和を検討しています。

北朝鮮や中国などの脅威から、政府は敵基地攻撃能力（反撃能力）の保持や防衛装備品の輸出を可能とする指針改定を検討しています。また、防衛予算の大幅引き上げを図り、2027年には、GDP比（国内総生産）の2%までにすることを公表しました。

第二次世界大戦後の、最大の危機が迫ってきているように思われてなりません。

安倍元首相銃撃に倒れる

昨年7月8日奈良市で、参院選の応援演説中に安倍晋三元首相が銃撃され、死亡するという痛ましい事件が起きました。いかなる理由があるにせよ、民主主義への暴力は許されないのは言うまでもありません。

安倍元首相殺害の容疑者の供述により、世界平和統一家庭連合（旧統一教会）と政治家や自民党との結び付きが問題化しました。教団は、靈感商法や高額の献金などで、信者やその家族の崩壊をもたらしたことも明らかになりました。

岸田首相は、銃撃から6日後には安倍元首相の国葬を表明し、国葬反対派のシュプレヒコールの中、9月27日に日本武道館で国葬が執り行われました。

特殊詐欺 高齢者狙い

関東地方を中心に各地で起きた広域強盗事件の主犯格と言われる4人が、フィリピンの収容先から日本に送還されました。グループは「ルフィ」などと名乗るリーダーが、闇バイトで応募した実行犯に指示し、2,300人から60億円超を詐欺していたそうです。

特殊詐欺は、グローバル化し、次から次へと手口を変えてきます。特に高齢者が狙われやすいと言われます。

トルコで大地震 東日本大震災上回る

今年2月6日トルコ南部を震源とする大地震が発生しました。基準を充たさない建築物が多いこともあって倒壊した建物は6,400棟を超え、死者はトルコとシリア両国で5万人を超えるそうです。行方不明者の数は確認さえできず、死者は更に増えそうです。被災者は2,600万人を超え、避難所が少なく多くの避難者はテント生活を続けています。医療品やトイレなども不足し、衛生面が悪化しています。

東日本大震災では、トルコからも多くの支援を受けました。12年前の教訓をもとに、復興に向けた日本の支援が待たれます。

大雨被害 宮城県内にも

昨年は記録的な大雨が各地に被害をもたらしました。7月15日夜から宮城県を中心に降った大雨で、大崎市古川の名蓋（なぶた）川や涌谷町の出来川が決壊するなど、住宅被害は9市町に及びました。2015年関東・東北豪雨、2019年台風19号に続く大規模水害でした。

東北の地に「希望の光」

暗い話題の多いなかで、勇気と希望を与えてくれたのは、第104回全国高校野球選手権大会で全国制覇を遂げた仙台育英高校でした。東北の高校は、過去に春の選抜大会で3回、夏の選手権大会では9回決勝戦に進みながら、深紅の大優勝旗は東北の地を踏めませんでした。東北の誰もが悲願としていた「白河の関超え」は、100年の歴史を経てついに達成されました。

プロ野球千葉ロッテの佐々木郎希投手が、4月10日オリックス戦で史上16人目の完全試合を達成しました。20歳の史上最年少での栄誉でした。佐々木投手は、岩手県陸前高田市生まれ大船渡高校出身です。小学校3年生の時に東日本大震災で、父親と祖父母を亡くし自宅も流され避難生活を送ったそうです。

今年3月9日に開幕したワールド・ベースボール・クラシック(WBC)では、佐々木投手と同郷の大谷翔平選手や東北高校出身のダルビッシュ有投手と共に、実力を遺憾なく発揮し優勝に貢献、14年振りの世界一に輝きました。

仙台育英高と共に、東北の地に感動と希望の光を灯してくれました。

県肢連活動 本年度もコロナに翻弄

令和4年度の宮城県肢連は、6月25日通常総会でスタートしました。

今年度も新型コロナウイルス感染症は収まらず、総会は、昼食を兼ねた懇談の場は中止とし、またご来賓の出席もご遠慮願うなどの対策を講じての開催としました。

第55回全国大会は、9月10日(土)愛知県豊橋市・ロワジュールホテル豊橋で開催され、前回同様オンライン参加としました。

東北ブロック地域指導者育成セミナーは、7月23日、24日に岩手県八幡平市・岩手いこいの村で予定通り開催されました。当会から4人が参加しました。

第40回東北ブロック秋田大会は、9月17日、18日、秋田県仙北市・あきた芸術村で開催が予定されていましたが、指導者育成セミナーの席上で、各県からの参加者の意見により1年延期となりました。

さわやかレクリエーションは、10月22日に石巻方面へのバス旅行を計画していましたが、新型コロナを考慮し、急遽、11月13日「クリスマス会」に変更して、県障害者福祉センターで開催しました。

また、当日は、当会から推薦していた「車いす送迎車」の寄贈式が行われ、アステラス製薬・フライングスター基金から宮城県障がい者福祉協会の肢体不自由児部門に車いす送迎車が寄贈されました。

宮城県肢連の令和4年度事業・活動も新型コロナウイルスに翻弄された1年となりました。

